



めざせ！！南十字星

★夢と勇気と元気をもって★ 2021・3・12

学校だより

3 学期号

ヨハネスブルグ日本人学校

コロナ禍の中、無事 3 学期終了！！

令和 2 年度は、世界中の誰もが経験し得なかった一年間になってしまった。3 月に新型コロナウイルスの脅威が現実になってきて、新学期をどのように開始するか、コロナ対策をどのようにするかなど、多くの課題をもちながら 4 月に突入、そして、始業式を 1 週間遅らせて、ZOOM によるオンライン授業を実施していくことに決定。しかし、教員誰もが経験したことのないオンライン授業、多くの情報を集めて、不安の中でスタート、保護者の皆様にも協力を得てオンライン授業の開始。しかし 1 週間、2 週間と過ぎていく中、授業が成立していく手応えを感じながら 5 月突入。当初は 1 ヶ月もしたら、コロナも落ち着き対面授業に切り替わる時が来る想定だったが、意に反して、コロナウイルスは南アにも上陸し、オンライン授業は長期戦になった。

そして、1 月によろやく対面授業を開始するも学校関係者からコロナ感染者が出て、急遽オンライン授業に切り替える。そうこうする内に南ア全体に登校禁止命令が出て、結局、2 月 1 日の対面授業開始であった。

このように、4 月から 1 月までの実に 10 ヶ月のオンライン授業であった。

しかし、2 月からでも対面授業が出来たことは不幸中の幸いであった。約 1 ヶ月半という短い対面授業であったが非常に密度の濃い教育が出来たと考えている。特に、卒業式に向けて、教員と子ども達が真剣に取り組み例年の卒業式に勝るとも劣らない立派な卒業式を行うことができた。正に、J S J の力を示す事ができたと思っている。



ひと味違う卒業式で 3 人が巣立つ

今年度の卒業生は中学 3 年生が 2 人、小学 6 年生が 1 人だった。上記でも述べたが、卒業生の真剣なまなざしやスピーチ、在校生の心のこもった贈る言葉や歌声があり、実に立派な卒業式だった。そして例年と異なる卒業式でもあった。卒業生の 1 人は日本からのオンライン参加であり、在南ア日本国大使館；丸山大使からもオンラインで祝辞を頂いた。さらにコロナ禍の中を配慮し、保護者のオンライン参加も実施した。このようにオンラインも一部使った卒業式ができたのもオンライン授業を経験した産物である。これからは、非常時でも I C T 機器を使った卒業式や学校行事が出来る時代に突入したことを実感する卒業式でもあった。何はともあれ、3 人の卒業生が対面で卒業式を実施できたことを喜ぶたい。

< 校長室からひとりごと > ~別れ、そして旅立ち~

3 月は卒業式をはじめ多くの別れがある。日本人学校に勤務された先生方の別れもその一つだ。今年も 3 名の先生方が任期を終えられ帰国の途につく。高柳悦夫先生（在勤 4 年；群馬県）小川剛先生（在勤 3 年；熊本市）松崎遼太郎先生（在勤 3 年；宮城県）である。3 名の先生方は、高い使命感と厚い教育愛をもって赴任され、J S J に多大な貢献をして頂いた。

高柳先生は理科教諭として、経験豊富な指導力を基に小学生には楽しい理科教育を、中学生には実験を大切に思考する理科教育を施された。また、安全指導や記録写真係として、安全に気を配って頂くとともに貴重な写真を数多く撮って頂いた。

小川先生は、各教科で秀でた指導力を発揮された。また、今年度は教務主任としてオンライン授業の続く中、毎週の時間割編成に尽力して頂いた。授業がスムーズにできたのも小川先生のおかげである。

松崎先生は、低学年を中心に丁寧でわかりやすい指導に心がけられるとともに E C 担当として、E C 講師と緊密に連絡を取り合い、充実した E C 教育に寄与して頂いた。また、Z o o m の立ち上げにも尽力して頂いた。

このように先生方の功績は大きく、残る教員に大きな財産を与えてくれた。3 人の先生方には、それぞれの県や市で J S J での経験を活かされ、更に活躍されることを祈念したい。3 年間並びに 4 年間本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

